



半袖になったりダウンを引っ張り出した  
りの中で4月が去り、カレンダーではもう  
風薫る5月、新緑の季節を迎えました。さ  
わやかな天気が続くこの時期は、例年戸  
外活動を充実させる時期です。各種規制が  
緩和された中で、各園職員一同、子ども  
達の笑顔があふれる日々がこの後中断す  
ることなく続くことを願って日々の運営  
に取り組んでおりますので、今年度も法  
人の運営を地域で見守り、ご支援下さ  
いますようお願いいたします。

2025年5月 第206号

社会福祉法人 島田福祉会

発行人：藤田知意

法人事務所 大田区大森北 3-3-5

電話・FAX 6404-9100・5767-5125

(島田保育園内)

<http://www5.famille.ne.jp/~shfk136/>

E-Mail:bigforest1-3-6@neo.famille.ne.jp

## 地域活動(出前保育)のご案内

園名	開催日時	会場	
北嶺町保育園	5月15日(木)11:00~	南雪谷児童館	保育士とあそぼう・手作り玩具
大森駅前保育園	5月8日(木)11:00~	山王児童館	離乳食・幼児の食事について、ふれ合い遊び

※児童館から依頼を受けて実施している事業ですので、内容の詳細、対象年齢等は全て会場となる児童館へ直接お問い合わせ下さい。

## 「主体性」の偏重と不適切保育

近年、「コロナ」の代わりのように、乳幼児施設とセットで出てくるようになった「不適切保育」という言葉。耳にされたことのない方はまずいないくらいに、報道や論説で取り上げられることが多くなりました。もちろん、報道される内容は心が痛むものであり、あってはならないことが大半なのですが、では「**そもそも何を以て不適切保育というのか**」というところで、**具体的かつ明確な方針が示されない**まま、申立があれば遑って「その行為は不適切だった」と指弾されかねないため、大多数の真摯に保育に取り組んでいる保育士が、「車道にとび出しそうな子どもの手を引っ張るのは、どのくらいの強さなら許容されるのか」「他の子に暴力を振るおうとしているのを見て、つい大きな声を出してしまったが威圧的と言われて処罰されるだろうか」「順番に並ばせるのは強要に当たらないか」「異性の子どもに対しては、スキンシップを望んでも絶対に拒否しなければならないか」「どんな理由でも子どもが泣いたら不適切と言われるのか」などと、常に迷いや悩みを抱える原因にもなっています。

言葉遊びのようですが、「不適切」とは「適切でない」ことです。そうすると今度は、「**適切な保育とは何か**」という問題になるのですが、乳幼児の保育施設の大部分は、**子どもの発達に寄与するような環境を整えた中で、子どもの意思(主体性)を尊重して見守り、必要な援助を行うこと**を保育の基本としていますから、それがすなわち「適切な保育」であると考えております。ところが近年、「主体性の尊重」を拡大解釈して、何も制止しない状態こそが正解であるとするおとなが増えてきました。本来子どもはそれぞれの好みや性格により多様な行動を取るものですから、それら全てを全く否定せず満たすには、「集団保育」を前提とした現在のあり方では不可能です。**「子どもは本来育つ力を持っている。大人からの押しつけでなく本人たちが主体的に生活リズムや規範意識を学んでいくように環境設定すべき**」なのは理想ではありますが、それに最適な環境設定をして見守るのは、当然現行の職員配置では対応しきれず、その過程の中で危険が生じれば、結局子どもへの強制や強要となってしまうことにもなりかねません。このジレンマの解消を職員・園が全て背負うことは残念ながら不可能ですので、まず監督庁が「今何を最優先すべきなのか」を明確にし、そのために必要な職員配置や設備・環境を提供した上で具体的な指示をしてくれることこそが必要なのではないかと考えております。法人内の各園では、その年齢なりの発達に合わせて、集団生活の中での主体性や自主性の育ちを時間をかけて見守りたいと考えておりますので、地域で育つ子ども全ての育ちを見守って下さる「おとな」の皆さんも、長期的な視野を持って御理解ご協力下さいますようお願い申し上げます。

## 北嶺町第二保育園

新緑の季節を迎えましたが、日本の四季の心地よさを感じられない日があり、子どもたちも体調を崩しやすくなっているよう



です。熱中症にかかりにくい体づくりのため、日々戸外に出てお日様の光を浴びながら体を使って遊んでいます。

新しく入ったお友だちと総勢60名の子どもたちでスタートしています。1歳児の子どもたちはお母さんの復帰に合わせ今年度から慣れ保育1日目は、一緒に過ごし給食を食べ帰園しました。園の様子もわかり安心して保育園生活をスタートしてもらえます。お母さん同士の会話もあり和やかに過ごせました。

慣れ保育は、5日間を目安に徐々に慣れていきます。朝少し泣く姿もありますが、お外に出ると園庭の砂場やシャボン玉遊びなど笑顔で遊ぶようになりました。在園児の子どもたちは、それぞれ進級し、当番活動などが入り張り切っています。新しい環境でまた子ども同士どんな学び合いがあるか楽しみにしています。

## 北嶺町保育園

桜の花の満開と同時に春らしい陽気に誘われ散歩を楽しんでいます。散歩先では桜の花びら集めやダンゴムシ、アリ探しに夢中になりお散歩バックに宝物を詰め込んで帰ってきます。「こんなのを見つけたよ」と散歩から帰ってくると教えてくれ、春の自然を満喫しています。



無事に冬を越せるのか心配していましたが、幼虫がアゲハチョウになりました。「元気だね〜」「どこに行くのかな?」と高く飛び立つアゲハチョウをみんなで見送りました。生き物の生命力の凄さに触れた瞬間でした。



仮園舎に引っ越しをして初めて迎える新年度。新入園児は初めての保育園生活でお家の方と離れ涙、なみだの日々でしたが、友だちと一緒に遊んだり、給食を食べたりする中で笑顔で過ごす時間が多くなりました。

幼児クラスで「子どもの日集会」を行いました。子どもの日の由来では、兜を飾る意味や柏餅を食べる意味を教えてくださいました。その後縦割りグループで「ロンドン橋ゲーム」を楽しみました。

## 大森駅前保育園

1階の乳児クラスは、例年通り全員の泣き声で賑やかな始まりとなりました。毎日泣き声が響き、落ち着かない日が続いていますが、今では少しずつ笑顔も、安心して眠れる時間も、楽しく遊べる時間も増えてきました。特に1歳児クラスの新しい園児は、すでに「クラス活動」に慣れている進級組のお友達に誘われて、いつの間にか遊び始め、いつの間にか楽しくなっているようです。そして今年度の目玉事業である床の張り替えも終わり、これからは子どもたちに合わせて環境を整えながら、室内活動の充実を進めていきたいと考えています。



気温が安定してきて、外遊びには最適な日が続くようになりました。花や実、ダンゴムシやアリと、春から夏への自然をじっくり観察している幼児クラスの子どもたち。遊具で遊ぶよりも観察に夢中になっている日も珍しくなく、中でも4.5歳児クラスでは、子どもたちの希望でダンゴムシを飼い始めました。担任と「飼い方をよく調べて大事に飼うこと」を約束し、何冊もの図鑑や絵本でよく調べ、採集日には「土はどれくらい?」「葉っぱも入れてあげないと」と、何人ものダンゴムシ博士が環境設定をしてくれました。

## 島田保育園

4月は新入園児の元気な泣き声が園内に響いていましたが、少しずつ落ち着き、登園時から笑顔が見られるようになってきました。進級した子(特に年長児)は、お当番活動など新しい活動を意欲的に行っています。自ら年下の子に優しくする姿も見られ、今年度の園内研修は異年齢の関りを大切にしていこうをテーマにして



いますが、大人が意図せずとも、「手伝ってあげたい」「○○してあげよう」と、子どもが自分で考え行動している姿に心が温まります。また、4月1日に0歳クラス、26日には3・4・5歳クラスが保護者会を実施しました。年間目標や今後の予定等を話したり保護者懇談会をしたりと、1時間という短い間でしたが充実した時間となりました。

園庭では、5歳児が代表で上げてくれたこいのぼりが元気よく泳ぎ、こいのぼりの歌を口ずさんだり、泣いている子を笑顔にしてくれたりしています。

進級して、張り切っている子どもたち。新入児を迎え、今年度も楽しい活動をたくさん行い、ご紹介していきます。お楽しみに。